

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和3年12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770107411		
法人名	株式会社いーくおる		
事業所名	グループホーム和の家		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市北区東上野芝町2丁287		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○施設と地域の方々との交流を深める為、施設では行事として地域の方に来て頂くようなごみ喫茶とカラオケ教室を月に1回ずつ開催させて頂いております。
○自治会の行事やボランティア活動にも積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

運営理念である「一人ひとりの意思を尊重し、よく理解して、安心と豊かな暮らしを地域と共に支えます。」を实践するため、地域住民との交流、相互協力等を積極的に行っている。事業所敷地内にある畑で旬の野菜(サツマイモなど)を栽培しており、その日々の手入れや収穫などを地域の「健老会」の人たちが担ってくれている。収穫した野菜は、利用者みんなで味わい、季節を感じられるよう支援している。また豆の皮むきなどを利用者の能力に応じて職員と一緒にやっている。
また、近くのいたすけ古墳や近所の庭に咲いている花々を見るなど季節を感じる事ができるように支援している。
事業所は、利用者がトイレで排泄ができるように取り組んでおり、日中は極力紙オムツを控え一人ひとりの排泄状況を把握し、声掛けしてトイレ誘導を行っている。
利用者に通院の必要があり、家族が連れていけない場合は主に管理者が同行し、必要な医療が受けられるよう支援している。また、協力医療機関は24時間連携を図ることができ、利用者や家族が希望すれば看取りができるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様一人一人の意志を尊重する。安心して生活できるよう心がける」の理念を全体会議等において職員全員で共有しています。地域の方々との交流も大切にしています。	運営理念は入職時に管理者より説明があるが、それ以降事業所玄関及び事務所内への理念の掲示以外は特に周知を図る取り組みはしていない。ただし、「地域と共に暮らしを支える。」特長を実践するため、地域住民との交流、相互協力等を積極的に行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設が開催している「なごみ喫茶」や「カラオケ教室」に地域の方々が毎月参加して頂く事で、交流をして頂いております。	町会に加入し、「なごみの家便り」を毎月、地域に回覧している。コロナ禍の影響で、「なごみ喫茶」や「カラオケ教室」を自粛している。地域の「健老会」の人たちが事業所敷地内にある畑で栽培している旬の野菜(サツマイモなど)の手入れや収穫をしてくれている。また、週に1回程度の近隣への散歩での挨拶や季節の花々とのふれあいを通じて、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板に毎月「なごみ新聞」として配信し、イベント開催の日時と内容を記載させて頂いております。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>奇数月の最終土曜日に、ご家族様・地域自治会・老人会・地域包括・他グループホーム管理者等が参加下さり、報告をし意見交換を行い、助言して頂いた件は、参考にさせて頂いたり実践したりしております。</p>	<p>運営推進会議はコロナ禍のため開催していない。</p>	<p>已む無く運営推進会議は開催できないものの、少なくとも書面等により活動内容の報告は行い、運営推進会議を構成するメンバーの意見等を募る取り組みは継続して行うことが望ましい。その際には意見や要望等の情報を職員間で共有できる仕組みづくりに期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括や自治会長に「なごみ新聞」を配布し施設のサービスの取組みを理解して頂いております。</p>	<p>市の担当者からは居室の空き具合に応じて、入居者の紹介があるなど、情報交換をしながら協力関係を築く取組みを行っている。リモートで開催しているグループホーム連絡会も管理者が毎回出席しており、市の担当者とも意見の交換を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を発足し年に4回の委員会を行い、職員の施設内研修も実施することで身体拘束が理解出来るよう努めています。</p>	<p>身体拘束に関する研修会はマニュアルの見直しを含めて年に2回開催している。また入職時の新人研修を兼ねた研修も行っている。欠席者には資料を配布し、各自内容の確認をすることとしている。玄関は日中も含めて常時オートロックで施錠しているが、ユニット出入口や居室の施錠はしていない。外出願望のある利用者は職員が付き添うこととしている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員の施設内研修を行い、職員間での虐待について理解を深め、常に注意を払い虐待防止に努めている。</p>		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内研修時などに利用者様に成年後見人がついている利用者様がおられる時は、その都度共通理解として学んでいます。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者より重要事項説明書に基づき説明を行い十分理解して頂いた後、契約の締結を行っています。</p>		
10	<p>6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様・家族様とは常に信頼関係を築けるよう努力し、意見の収集に繋がっています。</p>	<p>毎月「なごみの家便り」と一緒に利用者個々の暮らしぶりを写真と手紙で利用者家族に届けており、家族からの意見を聴き取るきっかけ作りの一つになっている。家族からは面会時や電話などで食事面の要望がある程度で運営面への意見や要望はほとんどない。聴き取った要望等は連絡ノートに記録し職員間で共有している。</p>	
11	<p>7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員からの意見や質問等は常に受付、回答や繁栄に繋がっています。ミーティングや施設内会議等でも意見を聞く機会を設けています。</p>	<p>職員が日頃から管理者に対して意見や提案ができる環境があり、勤務希望から利用者への援助のやり方や居室掃除のやり方の改善などの提案をしている。提案内容により運営面にも反映している。</p>	

12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の契約更新時を利用して行われています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人ひとりの意見を尊重し、働きやすい環境を目指し、資格等のステップアップに繋がる勉強環境を整備しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>月に1度開催される堺市北区グループホーム会議や年に2回の堺市全体会議に参加することで、他同業者との意見交換で交流を深めています。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>カンファレンスを行い、ケアマネージャーを通じて信頼関係を構築しています。</p>		

16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様からも情報を頂き、カンファレンスにて信頼関係を構築しています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者様やご家族様の意志をよく確認し対応するよう努めています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様の意志を確認しながら、ご自分で出来る事は見守り、出来ないことは支える関係が築けています。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様との絆に勝るものはないが、ご家族の代理をさせて頂いているという気持ちで、支援の方向性については意見交換を行いながら情報の共有をしている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある美容院やお友達との外食等の送迎を行い、会いたい方との連絡や約束を支援しています。	家族が利用者の友人を事業所に連れてきたり、知人が来所しており、その都度、利用者と玄関で対応できるよう積極的に面会の場を設けている。また、事業所に届いた年賀状や暑中見舞を読んで、いっしょに馴染みのあった人を懐かしめるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごしておられる時や、アクティビティを楽しんでおられる時は、職員が率先して利用者様同士の良好な交流関係になる為のお手伝いに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様のご家族様からの現状の相談や連絡にも対応し支援を行っています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や意見は前もって聞いていても、その都度変わっていく事が多くある為、その時の利用者様の意向を確認しながら、本人本位で支援しています。	利用者担当制により、主に担当した職員が意見を聴き取っている。聴き取りが困難な利用者には、家族から聴き取ったり、利用者の反応や表情から把握している。聴き取った情報等は連絡ノートに記入し職員間で情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ケアプラン作成時に過去の生活習慣などを踏まえた上でプランニングを行い、現状に役立てている。		

25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>バイタルや日々の状態の変化を確認し注意しながら職員で共有しています。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>10 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族との連絡を密にとり、職員間でも細かな意見やアイデアを出し合い、本人の意向に沿った介護計画を作成しています。</p>	<p>介護計画は1年ごとにモニタリングと計画の見直しを行っている。利用者に状態の変化があった時は随時の見直しを行うこととしている。介護計画は医師や看護師の意見を参考にしながら、管理者、計画作成担当者、担当職員がカンファレンスを開催して作成している。家族の要望等が聴き取れなかったために反映されず、作成後に状況を伝えることも多い。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々個別の記録を実施し、活かせるように情報の共有を行っています。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その都度ニーズに合わせて直ぐに対応できるように、密に連絡を取り合い迅速に対応しています。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の古墳や公園に行くなどして、地域に親しんで頂いています。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>かかりつけの医師とは密接な関係を保 ち、平常時はもとより、いざと言うときに 適切で迅速な医療が受けられるように 支援しています。</p>	<p>ほとんどの利用者は協力医療機関 の医師に変更している。協力医療機 関は24時間連携を図ることができる 体制である。通院が必要な場合は、 事業所が協力し適切な医療を受ける ことができるように支援している。医 療連携シートにより職員間で情報の 共有を図っている。診察内容等は適 宜家族へ報告を行っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている</p>	<p>週に1度の訪問日以外でも、訪問看護 師との連携を図り適切な看護が受けら れるよう支援しています。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時も定期的に病院へ行き、担当医 師や担当看護師より情報を把握するよう 努めています。</p>	/	/
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化する前よりご家族や関係者と話 し合いの場を持ち、方針の共有に努め ています。</p>	<p>重度化や看取りについては、事業所 ができることを書面で説明している。 重度化した場合は、主治医や家族と 話し合っている。内容は口頭と連絡 ノートを活用し、職員間で情報を共有 している。職員への看取りについ ての研修は行えていない状況である。</p>	<p>看取りを行う体制作りの一環として、職 員への研修を行うことができる環境整 備に期待する。</p>

34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師やかかりつけ医療のクリニックの看護師長等に研修をして頂いています。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練を行い避難場所には、近隣のコンビニを想定しています。	オムツや毛布、飲料水や食料品など3日分程度を備蓄している。災害時は近隣住民の協力が得られるように呼びかけている。 コロナ禍の影響もあり、防災訓練は実施できていない。	災害発生時に混乱が起きないようにするためにも、夜間想定も取り入れた防災訓練を2回程度実施することが望ましい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー保護など威厳のある暮らしを基本とし、日々の支援に努めています。	研修を年1回程度実施し、職員に周知している。不適切な発言とならないように日頃から話し合っている。家族の同意や希望により、利用者を下の名や旧姓で呼ぶことがある。個人記録は鍵の掛かる書庫に収納している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望等は普段の会話の中から読み取り、遠慮の無い本人の思いを表出できるように働きかけています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人にあった過ごされ方やケアが出来るように支援しています。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご本人の意思を取り入れる事を一番に考慮しています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その方に合った食事前後お手伝いをし、頂く事により、存在感を感じて頂き、日々の食事の時間にも楽しみを持って過ごして頂いています。</p>	<p>利用者が調理等に関わることができるように取り組んでいる。敷地内の畑で収穫した旬の野菜の皮むきなどを能力に応じながら職員と一緒にしている。月に1度はイベント食や誕生日会で利用者の希望を聴き取り提供している。食材は業者から購入しており、時にはクックチルを利用することもある。勤務上の理由により職員は利用者と食事を共にすることはない。コロナ禍であるため、外食は行っていない。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々の水分量や食事量の記録を行う事で体調に注意し、特に水分量はこまめにチェックを行い、一定量に達するよう習慣づけて頂くよう支援をしています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>往診の歯科医師の助言を仰ぎながら、個々人に合わせたケアを大なっています。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>出来る限りトイレでの排泄を援助し、自立支援に取り組んでいます。</p>	<p>オムツの使用は極力控え、トイレで排泄ができるように取り組んでいる。利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、声掛けしてトイレ誘導を行っている。夜間は、ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、できる限りトイレ誘導を心掛けている。水分が多くとれるように配慮したり、ヨーグルト等も提供し、スムーズな排泄ができるように支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>主治医と連携を図りながら薬だけに頼らず、オリゴ糖や腹部のマッサージ、飲食物等の提供を試みながら対応しています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>出来るだけ本人の希望に合わせた入浴を心掛け、前日入浴されていても「今日入りたい」と希望があれば叶えられるよう支援します。</p>	<p>入浴は週2回、午前中に入れるように支援している。浴槽のお湯は一人ごとに入れ替え、浴室内と脱衣室の温度差がないように配慮している。車いすの利用者にはシャワーキャリーとボディーシャワーを活用し入浴している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人の状況に応じて、その都度安心して頂かよう支援しています。</p>		

47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医療連携シートの作成や薬ファイルの作成により、職員間での情報共有に努めています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>好きなレクリエーションであっても、その日によっては参加したくない時もあるので、都度本人確認をしながら支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の希望を聞きながら支援に努めています。</p>	<p>週1回程度は車いすの利用者も含め、近隣を散歩している。近くのいたすけ古墳や近所の庭に咲いている花々を見るなど季節を感じるができるように配慮している。コロナ禍以前は遠足なども行っていたが、現在は中止している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の希望や理解度に応じて、使って頂けるように支援しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は本人に渡してお話して頂けるようにし、お手紙は目の悪い方が希望されれば、ご自分で書かれた手紙が書けているか、来た手紙は読んであげたりと支援を行っています。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その時々状況に応じた対応が出来るように心がけています。</p>	<p>食堂兼居間ではテレビを見たりと利用者が自由にくつろいでいる。職員は個別に寄り添って会話している。ラジオ体操や職員と歌と一緒に歌うこともある。カウンター式のキッチンからは調理する音や匂いを感じることができ、家庭的な環境になるように取り組んでいる。職員と一緒に作成した季節ごとの作品を飾り、季節感を持てるように工夫している。利用者間の相性を考慮し、席替えなども適宜実施している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本人の意志を確認しながら、その時々で対応しています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人やご家族様の意見を一番に考慮し、ご本人が利用し易いレイアウトにしています。</p>	<p>家具の持ち込みは自由である。家具の少ない利用者には事業所で用意することもある。家具の配置は家族と相談して決めている。利用者の暮らしに合わせ家具の配置を変更する際は、家族の同意を得ている。ベッドの代わりに床に「すのこ」を置き、マットを敷いて寝ている利用者もいる。利用者の干支をドアに貼って、自分の部屋と認識できるように工夫している。職員が毎日清掃し、室温管理している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の力を活かし安全に自立した生活が送れるよう支援しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない